

平成13年度機関外部評価会議の結果概要

[会議名] 機関外部評価会議

[開催日時] 平成14年2月26日 13:00～17:20

[開催場所] さけ・ます資源管理センター会議室

[出席者]

委員: 稲田委員、漆崎委員、古川委員、山内委員、阿部委員、石曾根委員 (武井委員代理)

来賓: 奈良水産庁栽培養殖課課長補佐

役職員: 大西理事長、福井理事、岡部監事、帰山監事、薫田総括部長、岩隈庶務課長、
関口経理課長、野川企画課長、広井調査研究課長、宮野増殖管理課長、
浅井指導課長、真山室長、野村室長、長谷川室長、浦和室長、清水室長、
(事務局: 佐々木、石黒)

[結果の概要]

議題	結果の概要
1 開会	事務局から開会が宣言された。
2 理事長挨拶	理事長から挨拶があった。
3 来賓挨拶	水産庁栽培養殖課 奈良課長補佐から挨拶を頂いた。
4 議事	理事長を座長に議事が進められた。
(1)会議趣旨	企画課長から会議の趣旨について説明がなされた。
(2)業務の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	企画課長から、年度計画の項目に沿って、実績、評価、次年度計画等について説明がなされた。主な意見等は次のとおりある。 資源管理連絡会議について、アンケート調査の改善方向にも示されているが、「ニ - ズの把握」を図る観点から、関係機関との質疑応答や討論の時間を多くするべきである。 共同研究を推進するには、センタ - の調査研究業務を大学等にもっとPRすべきだろう。その場合、センタ - には大学等にはないフィールド (施設、放流河川等) がある利点を強調すべき。 調査研究業務の効率化を図る観点から、北海道区水産研究所及び北海道大学等との連携を一層強化すべきである。

議題	結果の概要
<p>(3)国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>5 閉会</p>	<p>企画課長、増殖管理課長、調査研究課長、指導課長から、業務の実績、評価等について説明がなされた。主な意見等は次のとおりである。</p> <p>さけ・ます類に限定されているとは言え、広範囲な調査研究課題に対応している点は評価できる。研究者の少なさを補う方法としては、大学等との共同研究や連携大学院制度等を有効に活用すべきだろう。</p> <p>系群保全のためのふ化放流など北海道内だけで実施せざるを得ないことは残念だが、より全国的な立場で業務を実施し、可能な限り本州での調査研究、技術指導の充実を図るべきだろう。</p> <p>サケと異なりサクラマスは日本沿岸を回遊することから、未成魚期の沿岸調査については、広域的な調査体制の充実を図るべきであろう。</p> <p>ふ化放流事業経営は厳しい状況にある。その対策を図るための漁業経済に関する調査研究、コスト低減等のための技術開発等を積極的に進めるべきであろう。</p> <p>サケ資源の年変動要因を明らかにするため、沖合域を含めた海洋生活期の調査研究を推進するとともに、その結果をふ化放流事業にフィードバックすべきだろう。</p> <p>アンケート調査については、出来れば関係機関に限定せず、広範囲な意見を聴取すべきだろう。また、ホームページはセンター及びその業務をPRする上で重要な方法であり、その充実を図るべきだろう。特に、即時性を高めるための沿岸漁獲や河川捕獲速報の掲載、海外を含めたさけ・ます関係機関ホームページからのリンクをすすめるべきだろう。</p> <p>事務局から閉会が宣言された。</p>

平成13年度機関外部評価会議での主な意見等とそれらの改善方向

主な意見等 (H14年2月)	改善方向 (H14年4月)
<p>1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>資源管理連絡会議については、「ニ - ズの把握」を図る観点から、関係機関との質疑応答や討論の時間を多くすること。</p> <p>さけ・ます類に限定されているとは言え、広範囲な調査研究課題に対応している点は評価できる。ただし、調査研究業務の効率化を図る観点から、水産研究所、大学等との連携を一層強化すること。また、調査研究業務を大学等にPRし、共同研究等の推進を図ること。</p>	<p>「センタ - 業務に対する要望等を伺う」という会議の趣旨からも、できる限り 関係機関との質疑応答や討論の時間を多くすることとする。</p> <p>業務の効率的な推進を図る観点から、水産庁、水研センタ - 等主催の会議などあらゆる機会を捉えてセンタ - 業務のPRを行うとともに、調査研究のフィールドを持つセンタ - の利点を最大限に活かし、共同研究を含めた様々な方法で関係機関との連携強化に努めることとする。</p>
<p>2 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>系群保全のためのふ化放流など北海道内だけで実施せざるを得ないことは残念だが、より全国的な立場で業務を実施し、可能な限り本州での調査研究、技術指導の充実を図ること。</p> <p>サケと異なりサクラマスは日本沿岸を回遊することから、未成魚期の沿岸調査については、広域的な調査体制の充実を図ること。</p> <p>厳しいふ化放流事業経営状況を考慮した漁業経済に関する調査研究、コスト低減等のための技術開発等を積極的に進めるこ</p>	<p>「さけ・ます資源管理センタ - 」に改組された平成9年度以降、本州での調査、技術指導の機会を増やしてきており、引き続きその充実に努めることとする。</p> <p>漁期前に標識魚発見を関係道県及び漁業者等に依頼し、発見されたりボン標識については、該当する道県には通知するなどの広域的な調査体制を整えているところであるが、引き続き、その充実に努めることとする。</p> <p>センタ - の業務の中で可能な範囲で取り組み、成果を発表できる段階には、連絡会議や刊行物等を通じて情報を提</p>

主な意見等 (H14年2月)	改善方向 (H14年4月)
<p>と、また、サケ資源の年変動要因を明らかにするため、沖合域を含めた海洋生活期の調査研究を推進するとともに、その結果をふ化放流事業にフィードバックさせること。</p> <p>アンケート調査については、出来れば関係機関に限定せず、広範囲な意見を聴取すべきである。また、ホームページはセンタ及びその業務をPRする上で重要な方法であり、その充実を図ること。特に、即時性を高めるための沿岸漁獲や河川捕獲速報の掲載、海外を含めたさけます関係機関ホームページからのリンクを進めること。</p>	<p>供することとする。沖合生活期の調査研究については、担当する北水研との連携協力の強化に努めることとする。</p> <p>関係機関以外の者からの意見・要望も重要であり、これらについてはホームページを活用して聴取に努めることとする。また、ホームページの重要性を認識し、速報の掲載、リンク等、ホームページの充実について、引き続き、努めることとする。</p>